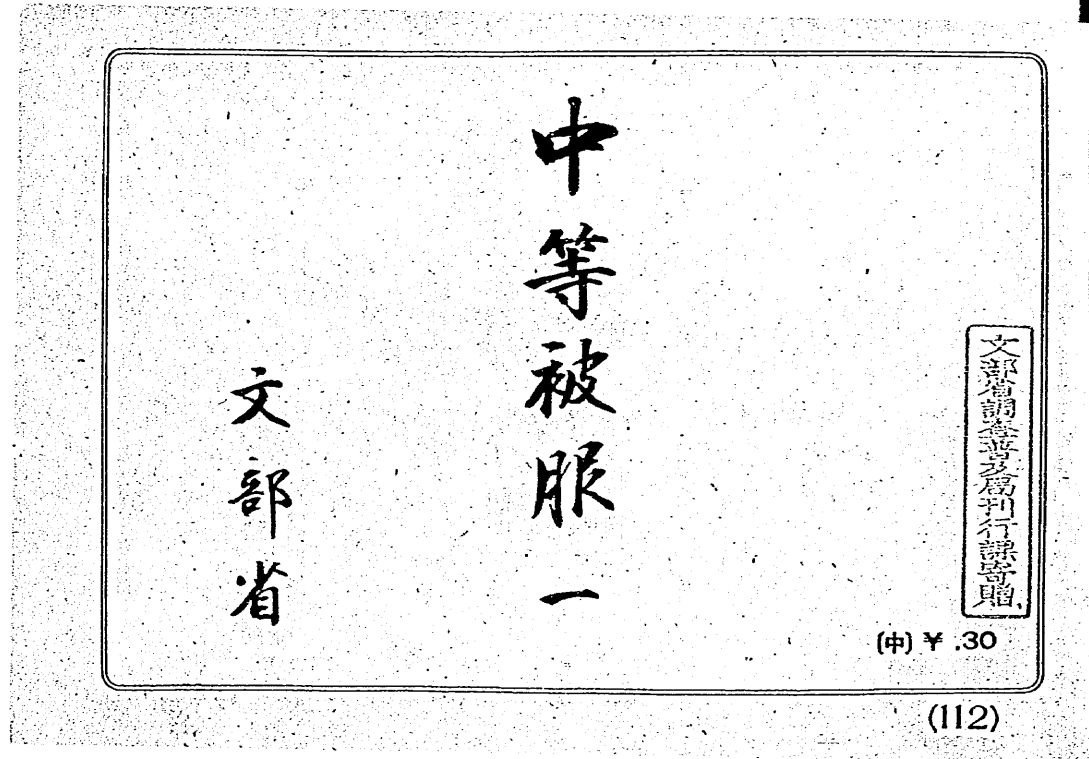


K240.5

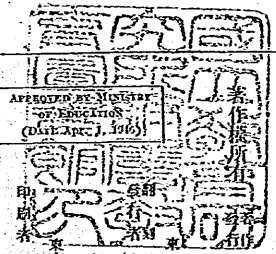
1a



昭和二十一年四月一日印刷
同日印刷印刷
昭和二十一年四月五日發行
同日印刷發行
〔昭和二十一年四月五日 文部省検査済〕

中等被服一【中】定價參拾錢

文部省



東京都神田區岩本町三番地
中等學校教科書株式會社
代表者 龜井 寅雄
東京都牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
大日本印刷株式會社
代表者 佐久間 長吉郎

發行所 中等學校教科書株式會社

教科書審定 112ノ一

四 制服 七

夏上衣 九

五 運動服 二六

上衣 二九

中ばき 三〇

六 下着類 三六

冬季用下ばき 三六

その一 三七

その二 三七

中着 三八

七 作業服 四〇

〔増〕下ばき・中ばき・中着 四〇

作業服下衣 四〇

〔増〕作業前掛 四〇

八 標準服乙型 四三

二部式單 四三

九 子供用足袋類(編み物) 四三

その一 四三

その二 四三

その三 四三

〔増〕幼児用下ばき(編み物) 四三

〔増〕附着(編み物) 四三



さへ金を外し、あさへ棒に、あさへ金と同様の方法で取り附けま

二つに折り、端を斜めに切つて縁附け具に通します。

縁を附ける布を縁附け具のラッパのくぼみに十分奥までさし入れ、すべり出さないやうにして縫ひます。

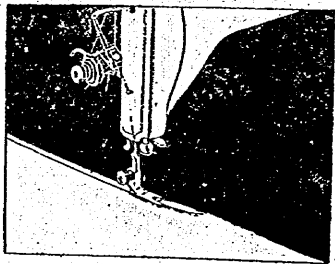
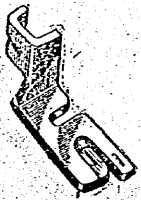
縁を附ける布と縁布との釣合に氣をつけないけません。

◇ 縁布はどんな地質が適しますか。

◇ 色・柄に就いてはどんな注意がいりますか。

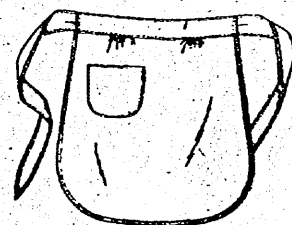
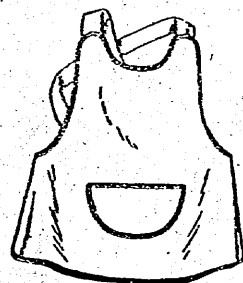
二 三つ巻き具

縁附け具と同様にして取り附けます。



布の端をこく細く折り、三つ巻き具にさし入れて、布を整へます。
三つ巻き具の中には、常に同じ幅だけ布地の縁がはいりやうにし、
布地を平にして縫ひます。

縫ひ目の位置は三つ巻き具の取附け方によつて調節されます。

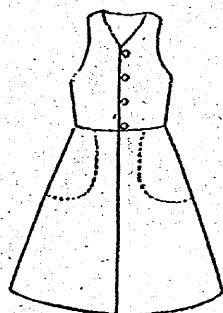
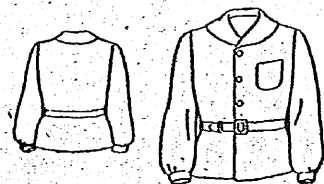


四 制服



私どもは制服を着て、生徒としての喜びと責任とを感じます。
私どもは仕立てから着用・手入れ・保存など被服生活の要領を、この
制服を通して正しく修練し、それによつていろいろな婦徳を身につけな
ければなりません。

規格



【一】構成

上衣と下衣の二部式。

【二】材料

紺色のサージの類。但し夏の上衣は白色のポプリンの類。

【三】製式

上衣



前は右前合せとして、三箇のボタンで留める。

ボタンの色は布と同系の色とする。

衿はへちま型とし、夏着のほかは白の覆衿を附ける。

袖は山を低くして前後のくりを同じにし、袖先には襷を取つて幅約四

センチ（一寸）の袖口布を附け、ボタン掛けとする。

暑熱の時期には半袖とすることもできる。

幅三・五センチ（九分）の帯を附

け、留め具を用ひてしめる。

左胸部に表かくし一箇を附ける。



下衣

襷なし、裾開きとし、裾廻りは一八〇センチ（四尺七寸五分）程度とする。

丈は膝下七センチ（二寸八分）ぐらゐとする。

上部は胴衣にボタン掛け、又は縫ひ附けとする。

左右兩側の縫ひ目にそれ／＼縦式内かくし一箇を附ける。

寒さのきびしい地方では、以上のとができる。

下衣の下には、膝下までの同色のとする。

夏 上 衣

材料

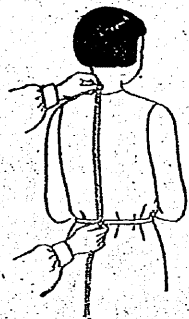
規格材料が得られなければ、夏上衣に適當なあり合はせの材料を用ひます。

仕立て方

一、寸法の測り方

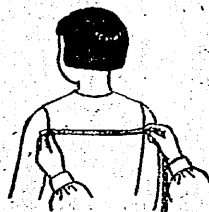
胸廻り・ゆきのほかに、次の箇所を測ります。

背丈 先づ、胸の一番細い所（胸廻り線）に紐をしめ、後中心に於いて頸のつけ根からこゝまでの長さを測る。



背丈

背幅



【一】構成

上衣と下衣の二部式。

【二】材料

紺色のサージの類。但し夏の上衣は白色のポプリンの類。

【三】製式

上衣



前は右前合はせとして、三箇のボタンで留める。

ボタンの色は布と同系の色とする。
衿はへちま型とし、夏着のほかは白の覆衿を附ける。

袖は山を低くして前後のくりを同じにし、袖先には襷を取つて幅約四センチ（一寸）の袖口布を附け、ボタン掛けとする。

暑熱の時期には半袖とすることもできる。



幅三・五センチ（九分）の帯を附け、留め具を用ひてしめる。

左胸部に表かくし一箇を附ける。

下衣

襷なし、裾開きとし、裾廻りは一八〇センチ（四尺七寸五分）程度とする。

丈は膝下七センチ（二寸八分）

上部は胸衣にボタン掛け、又は縫

左右兩側の縫ひ目にそれぞれ縦式

寒さのきびしい地方では、以上の製式によらないものを用ひることができ。

下衣の下には、膝下までの同色の中ばきをはく。但し、夏は適宜とする。

夏 上 衣

材料

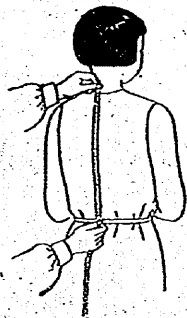
規格材料が得られなければ、夏上衣に適當なあり合はせの材料を用ひます。

仕立て方

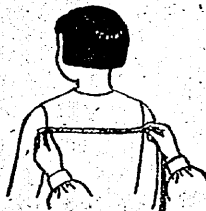
一、寸法の測り方

胸廻り・ゆきのほかに、次の箇所を測ります。

背丈 先づ、胸の一番細い所（胸廻り線）に紐をしめ、後中心に於いて頸のつけ根からこゝまでの長さを測る。



背丈



背幅

背幅 左右の腕のつけ根の間を測る。
 頸廻り 頭のつけ根の廻りを測る。
 手くび廻り 手くびの廻りを測る。



手くび廻り

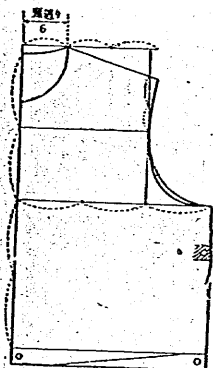


二 原型の取り方

現在の身長と胸廻りとで、胸の原型をお書きなさい。
 それを次のやうにお直しなさい。

衿ぐりは頸廻りの六分の二とする。

「くせ」は前下りと同じ寸法を脇でつまむ。



なほ背丈・背幅は實測寸法と照らし合はせ、割出して具合のわるい

所を直して、原型を仕上げなさい。

◇ 衿ぐりを改め、又「くせ」を取つたのはなぜでせうか。

◇ 「くせ」はどの邊でつまみますか。

三 型紙の取り方

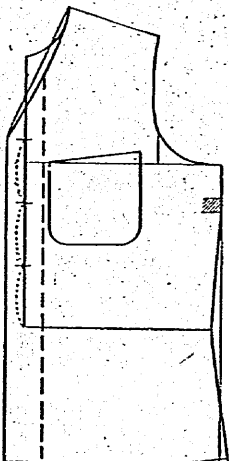
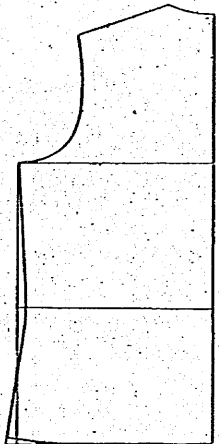
(一) 身ごろ

身丈は前後それぞれ一五センチ(四寸)ぐらゐづつ伸ばします。

脇線は胸廻り線で一センチ(三分)ぐらゐくり込み、裾は同じく、らゐを出します。

前中心から重なるの半分を出します。

衿ぐりは前中央で原型から四一六センチ(一寸から一寸六分)ぐらゐ下げてくります。



ボタン穴の位置を定め、第一ボタンと第二ボタンとの中央あたりに、大きき一〇センチ(二寸六分)ぐらゐにかくしを書きます。

(二) 衿

肩先を肩幅の三分の一乃至二分の一ぐらゐ重ねて、圖のやうに背きます。

衿幅は八センチ(二

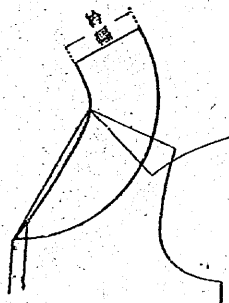
寸)ぐらゐ、衿腰は二

センチ(五分)以内と

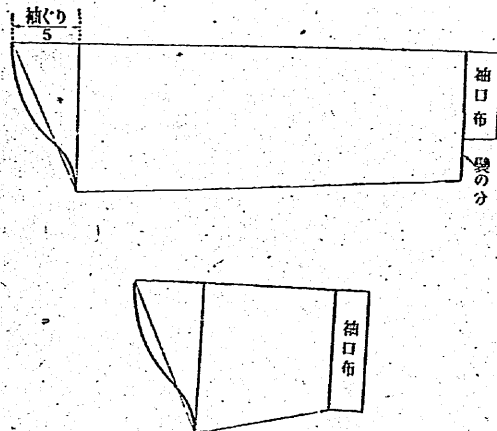
なるやうにします。

◇ 衿腰を低くする

理由を考へなさい。



(三) 袖



袖付け線の長さを測り「いせ」の分として、身ごろの袖ぐりより

二センチ(五分)ぐらゐ長くなるやうに、袖下線を書きます。

◇ 袖丈はどうしてきめますか。

四 裁ち方

(一) 地直し

布目が曲つてゐたり、水にあふと縮んだりするものなどは、裁つ前に地直しをします。それには、常に先づ、その一部分を調べて後、地直しの要不要や適當な方法などをきめます。

◇ 洗濯による経緯の縮みが、服の大きさにどう影響しますか。

地直しの主な方法

水に浸す仕方 布をしわにならないやうに正しく水中にさし入れ、もししぼりをし、なるべく廣い臺の上に擲けて乾かします。

霧を吹く仕方 水に浸す代りに霧を十分吹いてもできます。布目正しく巻き棒に巻き、生乾きの間に正しく擲けて乾かします。

アイロンをかける仕方 組は裏からあまり熱度の高くないアイロンをかけます。そのほか水分を與へたものは、生乾きの間にアイロンをかけます。初めは軽く當て、後、乾くにつれて、布目に沿つてあしつけるやうにして、十分乾くまでかけます。

(二) 裁ち方

◇ 自分の布の取り方、縫ひ代の附け方を圖解してごらん下さい。

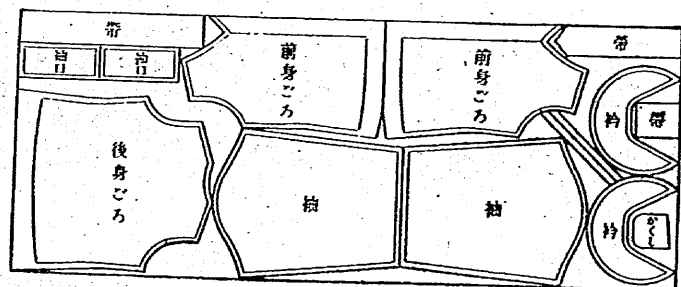
◇ 後に大きくすることができるときには、縫ひ代をどう加減してきめますか。

◇ 布が足りない時はどんな工夫をしますか。

布幅 七三センチ

(一尺九寸)

総用布 一八八センチ
(四尺九寸六分)



◇ 襟の附け方にはどんな注意がいりますか。
縫ひ方

女生徒としての品位を保つやう、着くづれのしないやう、丈夫に正しく縫ひます。

(イ) 身ごろと衿の假縫ひ 先づ、前身ごろの見返しを折り、肩・脇の假縫ひ合はせをし、裾を折り上げます。

前の「くせ」は、つまんでおきます。衿は假衿を附けます。

◇ 前後の肩の釣合はどうしますか。又その理由を考へてごらん
なさい。

着てみて、丈・幅の具合及び衿ぐり・衿・袖ぐりなどを調べます。

(ロ) 前あきの始末

(ハ) かくし附け

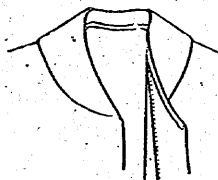
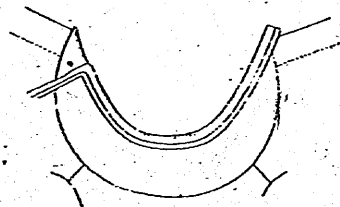
(ニ) 肩合はせ

(ホ) 脇縫ひ 前は「くせ」をつまんだまゝ袋縫ひにします。

(ヘ) 裾の始末

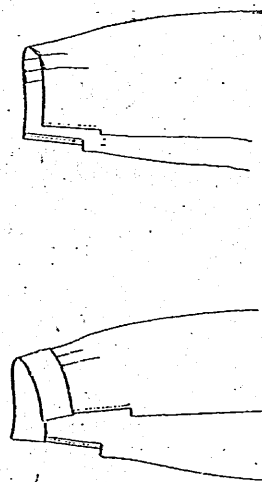
(ト) 衿及び衿附け 裏表の衿を合はせて縫ひ、縫ひ代を細く裁ち切り、つて表へ返します。周囲にミシンをかけてもよいでせう。

身ごろと斜め布とで衿を挟んで附け、縫ひ代を浅く裁ち切り、斜め布の端を折つてまつり附けるか、或はあさへミシンをかけます。この時、衿を肩廻りで少しづつ加減にします。



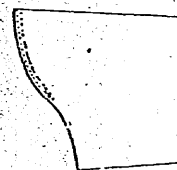
- ◇ 斜め布のつき方はどうしますか。
- ◇ 斜め布の釣合はどうすればよいですか。

(チ) 袖及び袖附け 圖のやうに袖口あき止まりより少し奥に切り込みを入れ、細い三つ折り縫ひにします。袖先に五つほどの襷を取り、袖口布を附けます。縫ひ縮めにしてもさしつかへありません。(假縫ひ)。次に袖下を縫ひます。



袖をゆるませるため、圖のやうに細かく縫つておきます。

袖山を肩の一番高い所に定め、次に袖下を合はせ、こゝを中心、縫ひ縮めのない間を平な釣合として、身ごろから待針を打ち、次に、縫ひ縮めのある間は、袖が平にゆるむやうに袖の方から待針を打ち、假縫ひをします。



(後) ¥ 1.20

(112)

中等被服一

文部省